

南ア月報
(2019年2月)

在南アフリカ日本国大使館

【内政】

- ラマポーザ大統領による施政方針演説

【外政】

- ラマポーザ大統領のエチオピア訪問
- ル・ドリアン・フランス外務大臣の南ア訪問

【経済】

<経済指標>

- 2019年財政演説
- 消費者物価指数 (CPI)
- 失業率
- 為替レート
- 製造業生産高
- 鉱業生産高

<出来事>

- 炭素税導入法案の可決
- アフリカ鉱業投資会議の開催

【警備】

- 銃砲店に対する強盗事件
- オリバータンボ国際空港からの追尾強盗 (犯人グループの検挙)

1 内政

- ラマポーザ大統領による施政方針演説

7日、ラマポーザ大統領はケープタウンで開会された国会において施政方針演説を行った。演説は、約1時間50分の長時間にわたり行われ、昨年2月のラマポーザ政権発足後の各種取り組み・成果に言及しつつ、雇用創出、投資環境改善、農業振興、技能開発、汚職対策、行政効率化等の取り組みを一層強化していく旨を表明した。また、次回総選挙を本年5月8日に実施する旨発表した。

2 外政

●ラマポーザ大統領のエチオピア訪問

10日から11日まで、ラマポーザ大統領はエチオピアを訪問し、AU総会に出席した。また、同総会のマージンで、SADC（南部アフリカ開発共同体）の会合に出席したほか、エチオピア、コンゴ（民）、ジンバブエ、モザンビーク、マリ、エスワティニ及びブルワンダの首脳と二国間会談を行った。

●ル・ドリアン・フランス外務大臣の南ア訪問

28日、ル・ドリアン・フランス外務大臣は南アを訪問し、シスル国際関係・協力大臣と会談した。多国間主義を標榜するマクロン氏が大統領に就任して以来、両国関係は強化されてきた。約400のフランス企業が南アで活動し、37000以上の雇用を生み出している。

3 経済

<経済指標>

●2019年財政演説

20日、ムボウェニ財務大臣は2019年財政演説をおこない、2019年度の歳入額は1兆5800億ランド、歳出額は1兆8300億ランド、財政赤字は2430億ランドとなる見込みと発表。歳入面は、昨年の中期財政予算演説時かの予想から150億ランド減。厳しい財政状況を鑑みて、酒税、たばこ税等の増税措置を講じることで150億ランドの歳入増を見込む。また、市場が注目していた公益公社（SOE）に関する救済措置は、SOE格差に2019年度は130億ランドを手当、さらに、南ア電力公社（ESKOM）には今後3年間で690億ランドを手当することが発表された。これらの財政支出に伴い、歳出シーリングを160億ランド増額する。本演説を受けて、市場では、信用格付機関各社が厳しい見方をもたれるとの持つのではないかとの意見が聞かれた。特に、3月下旬に予定されているムーディーズによる格付更新が注目されている。

●消費者物価指数（CPI）

1月の消費者物価指数（CPI）は、前月比0.5減の4.0%。2018年12月から2019年1月にかけて、物価は平均して0.2%下落した。（南ア統計局、2月20日）

●失業率

南ア統計局は、2018年第4四半期の失業率を27.1%（前期比0.4%減）と発表。金融業（10万9千人）、家庭内労働（6万5千人）、製造業（4万8千人）及び鉱業（3万1千人）での雇用創出が後押しし、さらに休暇シーズンが含まれる第4四半期でサービス業での雇用が増加したことで、失業率低下に貢献した（括弧内はそれぞれの雇用創出人数）。就業意欲のない人口の失業率も前期の37.3%から今期は37.0%にやや減少した。他方で、若者層（15歳～24歳）の失業率は前期の52.8%から54.7%に増加し、依然として非常に高い数値。（南ア統計局、2月12日）

●為替レート

2019年2月28日付（南ア準備銀行）

7.9369 円/ランド

13.9532 ランド/米ドル

15.8885 ランド/ユーロ

●製造業生産高

12月の製造業生産高は、前年同月比0.1%増。主なプラス要因は、食品・飲料製品で3.8%増、自動車及び輸送機器関連製品で7.0%増、ガラス及び非金属製鉱物製品で9.7%増。他方で、石油、木製品、製紙、出版及び印刷製品で3.0%減、鉄鋼、日鉄金属製品及び電気機器で2.8%減となった。季節調整後生産高は、12月は前月比0.7%増、2018年第4四半期は前期比1.2%増となり、自動車及び輸送機器関連製品の製造増を筆頭に、製造業10部門中、7部門での増加がみられた。また、2018年の製造業生産高は、前年比1.2%増となり、特に自動車及び輸送機器関連製品（4.9%増）と食品・飲料製品（4.6%）で製造増となった。（南ア統計局、2月12日）

●鉱業生産高

12月の鉱業生産高は、前年同月比4.8%減となった。主な要因は、金（31.0%減）、鉄鉱石（14.3%減）、非金属鉱物（18.4%減）、銅（30.8%減）及びクロム鉱石（9.3%減）。また、2018年全体の鉱業生産高は、前年比1.6%減。季節調整後生産高は、前月比1.2%減、2018年第4四半期は前期比1.0%減。主なマイナス要因は、金で12.2%減及びダイヤモンドで17.6%減。（南ア統計局、2月14日）

<出来事>

●炭素税導入法案の可決

18日、南ア国民議会は昨年11月にムボウェニ財務大臣が提出した炭素税導入に関する法案を可決した。炭素税法は、本年6月1日から施行され、段階的なフェーズを設けて炭素税各種を適用されていく予定。

●アフリカ鉱業投資会議の開催

4日～7日、関経済産業副大臣は、ケープタウンで開催されたアフリカ鉱業投資会議「マイニング・インダバ」に出席し、日本の取組を紹介するとともに、南アの大統領投資特使等と会談を実施。

4 警備

●銃砲店に対する強盗事件

13日、ボクスバーグの銃砲店に武装した5人組の強盗が押入って約100丁の銃を強奪した。最初にひとりの男が客を装って入店し、商品を見る振りをしているときに店主に銃を突きつけて、武装した他の仲間を店に呼び入れてから武器庫の中の銃を強奪したとみられる。

●オリバータンボ国際空港からの追尾強盗（犯人グループの検挙）

21日、警察の特別捜査隊等はアレキサンドラ（旧黒人居住地区）において、空港からの追尾強盗グループのメンバー4人を銃撃戦の末に逮捕した。警察がグループの拠点を検索した際、犯人グループは車のナンバープレートを付け替えている最中であり、次の犯行の準備をしていた疑いがある。一時期、沈静化していた追尾強盗であるが、引き続き注意が必要である。